



令和7年6月16日

報道関係者 各位

市川市 文化国際部長 山影 聡香

永井荷風文学賞最終候補作について

この度、市川市と三田文学会は協力して昨年11月に「永井荷風文学賞」を創設いたしました。永井荷風は明治、大正、昭和にわたって活躍した日本近代を代表する文豪であり、明治末年慶應義塾大学において『三田文學』を創刊し、多くの新進気鋭の作家を世に出した編集者でもありました。また荷風は戦後市川市に居を構えてその晩年を過ごし、市川市を描いた作品を多く残すなど、深い縁で結ばれており、市川市名誉市民の称号を贈られています。「永井荷風文学賞」はその広範な領域で卓越した業績を称え、その年における最も優れた文芸作品に授与されます。

賞の選考には安藤礼二氏・岡田利規氏・金原ひとみ氏・蜂飼耳氏・松浦寿輝氏らが当たり、ジャンルを越えた討論により、受賞作一作が決定されます。またこの賞には、公募型（小説・評論）の「三田文学新人賞」を継承する「永井荷風新人賞」が併設され、総合的な文学賞としてスタートしました。

記念すべき第一回文学賞の候補作が、下記のように決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 最終候補作

*刊行・発表順

市街地ギャオ『メメントラブドール』（筑摩書房）

田中純『磯崎新論』（講談社）

宇野常寛『庭の話』（講談社）

乗代雄介『二十四五』（講談社）

江本純子『真夜中に寂しくなったときに観たい演劇』（上演用台本）

なお、文学賞及び新人賞受賞作は9月11日（木）に発表いたします（場所：市川市役所第一庁舎一階 ファンクションルーム）。詳細については別途お知らせいたします。

【問い合わせ】

文化国際部 文化芸術課長 鈴木 久美子

電話 047-712-8557